

至誠館大学

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ(前半)			コード	1508	
英語表記	Seminar in social work practiceⅠ					
担当教員名	梅木 幹司			年度	平成28年度	
基準年次	3年次	開講期	前期	単位数	2	
授業形態		授業形式	演習	履修形態	選択	
授業概要						
本演習は、本学におけるソーシャルワーク教育の実践的な学びを目的とした科目である。ソーシャルワーク実践に求められる基本的な援助技術、それに関連する知識を学び、併せてソーシャルワーカーに必要な価値倫理を習得し、ソーシャルワーカーになるための基礎を固める。特に3年次後半に予定されている社会福祉援助技術現場実習Ⅰに向けての準備学習と体験蓄積のトレーニングの場として位置づける。						
到達目標						
以下の点について学習し、その援助技術の習得を目標とする。いずれにしてもワークなどをおとしての体験的学習を重視する。3年次後半の現場実習に向けた準備と実習先選択が可能になるようにしていく。						
1.ソーシャルワークの基本視点 2.ソーシャルワーク実践の原則 3.ソーシャルワークの価値倫理と倫理綱領 4.ソーシャルワークの援助技術の基礎(特に面接技法とコミュニケーション・スキル)						
授業計画						
第1回	オリエンテーション(授業概要と評価方法)、アイスブレイキング					
第2回	ソーシャルワークの価値と倫理、バ이스テックの原則と倫理綱領					
第3回	自己覚知Ⅰ:グループワークによる自己覚知					
第4回	自己覚知Ⅱ:グループワークによる自己覚知					
第5回	自己覚知Ⅲ:心理テストやワークによる自己覚知					
第6回	自己覚知Ⅳ:心理テストやワークによる自己覚知					
第7回	基本的なコミュニケーション技法Ⅰ:コミュニケーションの種類・技術					
第8回	基本的なコミュニケーション技法Ⅱ:傾聴					
第9回	基本的なコミュニケーション技法Ⅲ:効果的な質問					
第10回	基本的なコミュニケーション技法Ⅳ:内容の反映及び感情の明確化と反映					
第11回	面接場面の展開Ⅰ:面接技法の習得と実践					
第12回	面接場面の展開Ⅱ:面接技法の習得と実践					
第13回	面接場面の展開Ⅲ:面接技法の習得と実践					
第14回	社会資源についての理解					
第15回	各自の地域における社会資源についての整理と理解					
評価方法と基準		評価項目と割合(%)				
欠席については認めない。出席、発表、レポートならびに試験により総合的に評価を行う。試験については、実践的な理解度を重要視する。演習科目であるため積極的な授業参画を重要視した評価とする。		出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
		0	40	10	50	0
授業外学習		テキスト、教材				
進捗状況によっては、近隣の福祉施設等にボランティアとして参加する。		社団法人日本社会福祉士養成校協会＝監修「社会福祉士 相談援助演習」中央法規出版				
参考書		受講生へのメッセージ				
F.Pバ이스テック著、尾崎新ほか訳「ケースワークの原則」 参考図書・文献は適宜紹介する。また、必要に応じてレジュメや資料を配布する。		本演習は、社会福祉士受験資格及び保育士資格の取得希望者が履修する科目である。また、社会福祉援助技術現場実習を履修する者は必ず履修すること。欠席は認めないため、やむを得ない欠席については補講で補うこととする。				
キーワード						
ソーシャルワーク、自己覚知、社会福祉援助技術現場実習、コミュニケーション技術、体験型ワーク						